

□ アナリスト週間相場予想

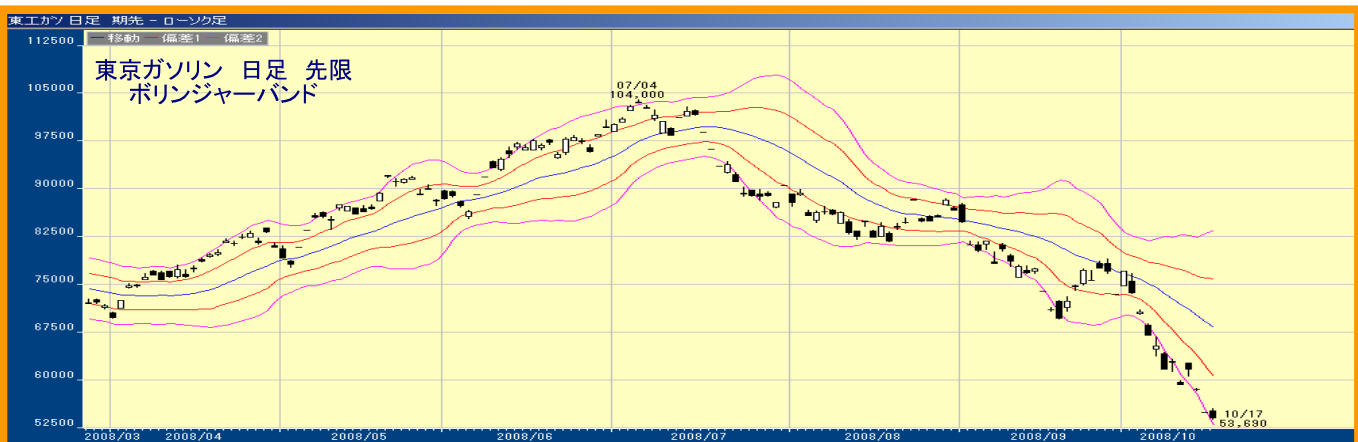
	原油 Oil	ガソリン Oil	灯油 Oil
江崎			
西			

Pick up News

[注目スケジュール]

- 10/22 原油・石油製品供給統計週報 (石油連盟)
米エネルギー情報局 (EIA) 週間在庫統計
- 24 米商品先物取引委員会 (CFTC) 建玉報告

□ テクニカル分析 (担当: 西 勝之)



東京ガソリン日足は先週に引き続き下降バンドウォークを継続中、なんと9営業日連続で標準偏差 -2σ の下降に沿って値段が推移している。普通下降バンドウォークは大幅な値幅を伴って、比較的短期で終了する動きである。東京ガソリンのここ2週間の動きこそ現在のエネルギー市場の弱さを現しているのではないだろうか。穀物や白金も日足は非常にガソリンに似ており、テクニカル考察からは同じ売り方針継続となる。しかしガソリン市場が他銘柄よりも売り有利ではないかと思われる要素として今週は”下落割合”を挙げておく。金以外の主要銘柄は期先繋ぎ足で、今年7月の高値から50%以上の下落を現在示現している。しかしながらガソリンはまだそのパーセンテージに達しておらず、他銘柄に比して下落割合が少ない。しかも本日(10/17)まだ下降バンドウォークのさなかにあり、天井からの下落率が低いからといって下降の勢いが弱い訳では決してない。大きなボラティリティをコントロールすべく(戻しに踏まされない為)参入枚数には気をつけるべきであろうが、先週に引き続き売り方針変更の必要性は当方感じない。(10/17 14:10現在)

□ ファンダメンタル分析 (担当: 江崎 和弘)

NY原油相場の予想価格の下方修正が相次いでいる。7月に147ドル台まで上昇した際には強気一色であった相場もすっかり様変わりし、今や70ドル台さえいつまで維持できるかという弱気トレンドに支配されている。投資銀行(商業銀行へと形態を変えつつあるが)や証券会社からの第3四半期の予想価格も、70~75ドル近辺に収斂している。これは現状追認に過ぎないものであるが、さすがに世界的な景気後退の影響を強く受けるとの見方にならざるを得なかったということであろう。今のところ60ドル台を予想する声はあまり聞かれないが、もはや適正価格を予想するのは困難で、仮に60ドル台定着が現実のものとなれば、時間とともに予想価格もまた引き下げられるであろうことは容易に想像がつく。

振り返ってみれば、原油の高騰に関しては投機が問題なのか、需給バランスが問題なのか、双方の視点で論戦が繰り広げられたが、単純に考えて需給の変化だけで3ヶ月間で半値水準に落ちるものではない。背景にはやはりファンドの存在、そしてドル安があったのは明白である。ここまで来れば、投機規制問題もないがしろにされる可能性が高い。こうした現状で注目すべきは株価との連動性であろうか。市場は金融不安から实体经济の悪化を気にし始めており、米国の小売売上高の急減速に警戒感を露にした。大統領選を控える米国で景気刺激策が早急に取りまとめられる公算は小さいため、株価の底割れリスクが残る。景気の先行きを示すのが株式市場、そして将来の需給を表す鏡でもある。需要減少に目が向かっている状況では、景気刺激策がないと底入れは難しそうだ。

◆ 添付されている『取引の重要事項』をかならずご確認ください。

許可RE0061(許可取得日08/10/17)